

# 平成19年度「全国学力・学習状況調査」の結果について（お知らせ）

鹿児島市立谷山小学校  
校長 横山 千尋

本年度4月に全国で実施されました「全国学力・学習状況調査」の本校分の結果が明らかになりましたので、お知らせいたします。なお、本調査内容は学習指導要領全体を網羅するものではないことから、この結果は、児童が身に付けるべき学力の一部分の状況とお考えください。

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

### (2) 調査の実施学年・実施学級数・児童数

学 年	学 級 数	実 施 児 童 数
第 6 学 年	6 学 級	2 1 5 名

### (3) 調査の内容等

実施教科等 国語，算数，質問紙調査

教科に関する調査 前学年までに含まれる指導内容の中から出題

「知識」に関する問題

身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容等に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

質問紙調査 学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する内容

### (4) 調査実施日 平成19年4月24日（火）

## 2 調査結果の概要

### (1) 本校の平均正答率の概要

	出題内容	全国の平均正答率と比較して	県の平均正答率と比較して	市の平均正答率と比較して
国語A	知識に関する問題	やや上回っている	ほぼ同じである	やや下回っている
国語B	活用に関する問題	やや上回っている	やや上回っている	ほぼ同じである
算数A	知識に関する問題	ほぼ同じである	ほぼ同じである	ほぼ同じである
算数B	活用に関する問題	ほぼ同じである	やや上回っている	ほぼ同じである

### (2) 問題ごとの結果と考察(全国正答率と比較して特徴的なものを抜粋)

		よかった点	改善を要する点
国語	知識	漢字の読み書きで高い正答率を示した。 今後も日々の漢字練習や小テストを継続し、日記でも既習漢字を使うように繰り返し指導したい。	漢字辞典の効率的な調べ方を問う問題の正答率が低かった。 辞典の使い方を再指導するとともに、日頃から辞典を使う習慣を身に付けさせたい。
	活用	「ゴミを減らすための取組を考えて80字以上120字以内で書く」問題の正答率が高く、無解答率が低いという結果が見られた。 国語のみならず、社会科や総合的な学習の時間等でも自分の考えを書いたり述べている活動を大事にしたい。特に、新聞やインターネットなどから時事問題を取り上げ、必要な情報を選択して自分なりの意見をまとめるような学習を経験させていく必要がある。	「古紙を出すときに守ることを新聞に書く」問題での正答率が低く、無解答率が高いという結果が見られた。

算数	知識	<p>図形の定義や性質を問う問題，平行四辺形の面積を求める問題等で正答率が高かった。</p> <p>分数が示す量を指摘したり，小数と分数の大きさを比較したりする問題でも高い正答率を示した。</p> <p>数量や図形についての基礎的な知識・理解が定着してきている。今後も具体物の操作活動を取り入れるなど，体験的な学習の場を大切にしていきたい。</p>	<p>「<math>27 \times 3.4</math>」「<math>12 \div 0.6</math>」といった計算問題で全国の正答率をやや下回っていた。</p> <p>計算方法を再指導するとともに，計算小テストや宅習で繰り返し復習させ，確実な定着を図っていききたい。</p> <p>「<math>210 \times 0.6</math>」の式で答えが求められる文章題を選ぶ問題で，正答率が低かった。</p> <p>文章題の題意を把握しやすくするために，線分図に表したり簡単な数値に置き換えて考えたりする学習活動を多く取り入れるようにしていきたい。</p>
	活用	<p>「<math>25 \times 32</math>」を筆算を使わずに工夫して計算する方法を説明する問題で正答率が高かった。</p> <p>グラフを見て，人数の大小や割合の変化を読み取る問題で，正答率が高かった。</p> <p>今後も，算数や社会科の授業で，グラフを基に情報を読み取ったり結果について考察したりする学習活動をより多く経験させたい。</p>	<p>割合の計算によって，より効果的な買い物の方法を求める問題で，正答率が低く，無解答率が高いという結果が見られた。</p> <p>「定価 1200 円の 20%」が定価 1200 円の 0.2 倍，つまり <math>1200 \times 0.2</math> となること，「定価の 20%」と「定価の 20%引き」との意味の区別などについて理解させるために，線分図などを用いた指導方法を工夫したい。</p>

(3) 質問紙調査の結果と考察(特徴的なものを抜粋)

特徴的なもの	考 察
<p>「早寝・早起き，朝ご飯」などの基本的な生活リズムに関する項目で，できている子どもの割合が高い。</p> <p>「平日に家を出る何分くらい前に起きるか」の問いに対して，30分強の子どもの割合が高く，全国・県・市平均を下回っている。</p>	<p>基本的な生活リズムに関する意識が高く，PTAと保健指導での共通実践の成果と考えられる。なお，起床から家を出るまでの時間に関しては，余裕を持って準備をしたり安全に登校したりすることができるように，家庭と連携を図って起床時刻を早める取組を具体化したい。</p>
<p>「自分にはよいところがあると思う」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」「将来の夢や目標を持っている」等の項目で，肯定的な子どもが多い。</p> <p>「家の人と学校での出来事について話をする」「学校で友達に会うのが楽しい」「学校で好きな授業がある」「学校で楽しみにしている活動がある」等の学校生活に関する意識が肯定的な子どもが多い。</p> <p>「人が困っているときには進んで助けている」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「いじめはどんな理由があっても許されない」「人の役に立つ人間になりたい」のいずれの項目でも肯定的な回答の割合が高い。</p>	<p>子どもたちが学校生活を楽しみにし，いじめをせず，思いやりがあり人の役に立つ人になりたいという願いを抱いていることは喜ばしいことである。</p> <p>今後も道德教育や生徒指導を中心に，将来の夢や目標について語り合う場を大事にしていくとともに，望ましい人間関係づくりの指導を充実させていきたい。</p>
<p>「平日にテレビやビデオ，DVDを見たり，テレビゲームやインターネットをしたりする時間」は全国・県・市平均より短い。</p> <p>「平日に家や図書館で読書をする時間」は，10分から30分までの子どもが多く，全国・県・市平均を大きく下回っている。また，「読書は好き」と答えた子どもの割合も全国・県・市平均を下回っている。</p>	<p>これまでの読書指導の取組により読書量は大幅に増えてきている。</p> <p>そこで，さらに読書意欲を高め，習慣化を図るために，現在PTAと連携を図って取り組んでいる読書活動をさらに充実させるとともに，読書環境の整備や読書時間の確保の方法についても検討していきたい。</p>
<p>「今住んでいる地域が好き」「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と思っている子どもの割合が，全国・県・市平均を大きく上回っている。</p> <p>「海，山，湖，川などで遊んだことがある」「魚や貝や昆虫を捕まえたことがある」「生き物を飼育したことがある」「花を咲かせたり野菜を育てたりしたことがある」といった項目で，全国・県・市平均を大きく下回っている。</p>	<p>自然体験の場としての川や海が安全指導上は危険箇所ともなり得るので，身近な自然での体験が少なくなっているとも考えられる。</p> <p>そこで，保護者や地域との情報交換，連携を図りながら，ふるさと探検隊等の自然に触れる体験の場に積極的に参加させていきたい。</p>

(4) 各教科の調査結果と質問紙調査結果の相関から

子どもたちが学校生活を楽しみに感じるような学級経営を基盤に，漢字・計算などの基礎・基本の定着が図られている。今後も，家庭との連携を密にしながら，子ども一人一人にとって「心の居場所」となる学級経営がなされ，それを基盤に基礎・基本の定着を図り，さらには知識・技能の活用能力をも高められるような指導方法を工夫・改善していきたい。そのためには，子どもの理解状況，技能の定着度等を把握し，それに応じた指導を工夫するような指導と評価を一体化させた授業づくりを工夫していきたい。